

＜「知のまゆ」のはじまり＞を体現するホールで出会いの場を演出 アドミッションセンター 4月1日オープン

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山壽哲哉）は、2022年4月1日、アドミッションセンターを正門近くの1号館1階にオープンします。本学を訪れた高校生や保護者がより快適な環境で大学や入学試験の情報を得られることを目的としています。

デザインコンセプトは、＜「知のまゆ」のはじまり＞。大学生生活を通して「知」の糸でまゆをつくり、大きく育てて広い世界に飛び立つことをイメージしています。エントランスホールは、「知のまゆ」を象徴した天蓋を天井から吊るすことで、ホール全体に包み込むようなやわらかい光が差し込み、リラックスして語らうことができる環境としています。また、武蔵大学の特長である「ゼミ」のプロジェクションマッピングを投影するなど、高校生が大学生活への期待をふくらませることができるような出会いの場を演出します。

アドミッションセンターの特長

■ 主な施設

・エントランスホール

吹き抜けのエントランスホールには、まゆに包まれるような丸みのあるゆったりとしたソファを配置。授業の合間には在生も利用可能です。在学生の姿を見ることで、キャンパスライフへの期待を高めます。

・ギャラリーボード

「ゼミの武蔵」について、高校生が直感的に理解できるように、各学部で行われているゼミのタイトルやキーワードを織り交ぜたプロジェクションマッピングを投影します。そのほか、インフォメーションゾーンでは、学生が撮ったサークル等の紹介動画を見ることができます。

・その他

エントランスモニター、キャンパスマップ、個別相談ブース、資料展示コーナーなど武蔵大学について知る仕掛けを随所に施しており、ニーズに合わせ、柔軟な対応が可能です。



まゆの天蓋とエントランスホール

■ あたたかみのあるワクワクする場に /アドミッションセンター職員からのメッセージ

アドミッションセンターは「白」と「丸み」を基調とするまゆのモニュメントによって、学生と教職員との距離が近い武蔵大学の「あたたかさ」を表現しています。高校生の皆さんをあたたかく迎え入れ、充実した大学生活を送れるよう支援したいと思います。このアドミッションセンターから「知のまゆ」の形成が始まり、成長して羽ばたいていくことを願っています。受験を考えている方やそのご家族をはじめ、武蔵大生にも気軽に立ち寄っていただきたいと思います。



アドミッションセンター 課長
遠藤圭太さん

— 本件に関するお問い合わせ先 —

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp

施設概要

名称：アドミッションセンター

場所：1号館 1階

面積：384.30㎡

全体監修：株式会社武蔵エンタープライズ

デザイン・設計、施工：株式会社丹青社



エントランスホール



ギャラリーボード



対応イメージ

2022年4月17日、武蔵学園は創立100周年を迎えます。



■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開校され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称MCV）を開校、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部を開校。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1